比喩からお呼びのかかった animal (1)

【 問題１ 】

次の文章は、それぞれ動物を比喩に使った表現です。

[　　] の中にふさわしい動物名を入れて、日本語に訳してください。

1. He is as courageous(or brave, or bold) as a [　　].
2. He is as strong(or powerful) as an [　　].
3. He is as wild(or cruel) as a [　　].
4. He is as stupid(or foolish) as a [　　].
5. He is as stubborn as a [　　].
6. He eats like a [　　].
7. He works like a [　　].
8. He is as rude(or rough) as a [　　].
9. He is as sly(or crafty) as a [　　].
10. He is as insidious as a [　　].

比喩の面白さからどんどん広がる英語への興味【解答と解説】

1. He is as courageous (or brave, or bold) as a [lion]. 彼は（ライオンのように）勇敢です。
何故か、どうしても Lion から始まってしまいます！ なんてったって The King of Animals(Beasts)ですから…。 「勇敢さ」で比喩される対象でしかないのです！ では、Tiger は？・・・答えはこの後。

2. He is as strong (or powerful) as an [ox]. 彼は（野牛のように）強靭です。
「強さ（頑強さ）」で比喩される対象はいろいろあります。 動物では、一般的に、Ox か Horse がメジャーなようです。 馬も馬力という単位に使われるぐらいですからね。 この問題では、不定冠詞が an ですから ox が正解になります。 動物以外では、 as strong as rock.・・・岩のように堅牢な

3. He is as wild (or cruel) as a [tiger]. 彼は（虎のように）野性的な人です。
Tiger は Lion とは対照的に「どう猛さ、残忍さ」で比喩される対象のようです。 それにしても”cruel”はちょっとかわいそうな気がしますね。 転じて、 ➢ work like a tiger・・・猛烈に働く ➢ fight like a tiger・・・激しく戦う といった「猛烈さ」を表す使われ方をします。

4. He is as stupid (or foolish) as a [ass (or donkey)].
彼は（ロバのように）愚かですね。

ロバとしては Donkey の方が一般的ですが、「バカな、愚かな」を主題とするような場合には”ass”を含んでイディオム化されています。

- play the ass・・・馬鹿な真似をする
- make an ass of oneself・・・笑いものになる、恥をさらす
- make an ass of a person ・・・人を笑いものにする、人を愚弄する

ロバたちの内々では「なんてこった！」と苦笑いして、
“as stupid as the human”と言っているかもしれませんね。

5. He is as stubborn as a [mule (or donkey)].
彼は（ラバのように）頑固です。

stubborn・・・強情な、頑固な ≒ obstinate

「頑固さ」で比喩される対象は Mule のようです。
一般的には Mule が使われますが、Donkey も使われているようです。

Mule は雄の Donkey と雌の Horse の雑種で、日本語では『ラバ』
「なんてこった！」
この歳になるまで、調べたことなかったです！

逆の組み合わせは『ケッテイ』って言うんですって！
言葉も聞いたことがなかった！

ここでも、ロバやラバたちは「なんてこった！」と怒り心頭かもしれません。

6. He eats like a [horse].
彼は（馬のように）よく食べる。

Horse が「大食い」で比喩される対象となるのは日本と同じようです。
日本では、「牛飲馬食」とか「鯨飲馬食」とか言われますね。

Horse は先ほどは「強さ」でも出てきましたが、「強さ」「大食」以外にもいろいろな面がピックアップされている宝庫の動物です。

bucking horse になることで、

- as rude as a bucking horse・・・跳ね馬のように気質が荒い

一方、好ましい意味でも使われることがあり、次の 7 の答えにもなります。

7. He works like a [horse].
彼は（馬のように）こまめに働く。

works like a horse・・・こまめに働く

日本では「馬車馬のように働く」と言いますから、少しニュアンスが違いますね。

ただ、「馬車馬のように働く」は”work like a tiger”とも少しニュアンスが違うように思います。

8. He is as rude (or rough) as a [bear].
彼は（熊のように）荒々しい。

bucking horse と同じように「荒々しさ、がさつさ」を比喩する対象の筆頭が Bear です。
また、飢えている状態の比喩にも使われます。

- He is as cross as a bear.・・・彼はひどく機嫌が悪い。（あるいは、意地が悪い。）
- He is as hungry as a bear. ・・・彼はひどく飢えている。

9. He is as sly(or crafty) as a [fox].
彼は（狐のように）ずる賢い。

sly・・・ずる賢い、狡猾な ≒ insidious ≒ crafty

「する賢さ、狡猾さ」で比喩される対象は何と言っても Fox！！

日本でも、晴れているのに雨が降っている空模様を『狐の嫁入り』（若い諸君は知らないだろうなぁ）などと呼ぶのですが、おそらく人を化かすという言い伝えから派生して、このような「する賢さ、狡猾さ」に結びついているのでしょう。

英語圏でも同じようですから、由来は世界共通なのかもしれませんね？
悲しくも、下記のようにイディオム化されています。

- play the fox・・・する賢く立ち回る
- a fox in a lamb’s skin・・・偽善者 = hypocrite

ついでに、よく似た idiom として
- wolf in lamb’s clothing・・・羊の皮を着た狼,親切を装った悪党
- He is an old fox.・・・彼は老獪である。（彼はとんだ古狸だ。）

いやはや、日本では狐も狸も同じ地位です。が世界でも同じでしょうか？

では、狸は英語でどう言う？
ここから、また拡がりと繋がりが出てきそうですよ。

10. He is as insidious as a [snake].
彼は（蛇のように）陰険だ。

sly・・・ずる賢い、狡猾な ≒ insidious ≒ crafty だったね。

「する賢さ、狡猾さ」で比喩される対象は Fox 以外にあるのでしょうか？
実は Snake もお仲間だったんですね。

ただ、Snake は狡猾さの上に陰険さが加わったイメージが付与されているようです。
ですから、問題の idiom よりも、むしろ下の使い方の方でよく使われるようです。

- snake in the glass・・・隠れた危険・見えない敵

転じて、信用できない危険な人といった意に使われる。

- warm(cherish) a snake in one’s bosom
  恩を仇で返される・飼い犬に手を噛まれる

英語が嫌いでも苦手でも、こういったところから手を付けてみると、存外ハマるかもしれないね！

[融通無碍]

何かの性質や特質を借りて、それに例えて表現することを比喩と言いますね。
その比喩には、直喩（simile）と暗喩・隠喩（metaphor）があります。

「シミリー」なる言葉にはあまりお目にかかることはありませんが、「メタファ」という言葉はある程度、日本語化されています。
とは言っても、堅い本を読まない諸君には耳慣れない言葉かもしれませんね。

英語の勉強とは関係ありませんが、「メタファ」という言葉を使えるようになった時、諸君は周囲から一目置かれる存在になっていることでしょう。

君が、今これを見て「メタファ」という言葉をいつか誰かに使ってやろうと、いろいろ調べて、日本語で何か文章を考えたとします。
そのことだけでも、君は一つ使える知識を手にしたことになるわけです。

本問題は、全て直喩の表現ですが、”as 原級 as ～” は強い直喩。

最初の”as”は「同じぐらい」であることを強調し、次の”as”は比較する基準を表しています。

ですから、最初の”as”を省略した
“・・・ as ～” の場合はただ単にシンプルな直喩で単一直喩と呼び、
“・・・ like ～”と同じニュアンスになります。